

地球は病んでいく

飛田君 枝

こどもの咽喉がひりひり
音をたてる

眠られぬ
夜の気配に身をゆだねていると
汚れていく地球の
うめきが聞こえるようだ

…昼は昼

夜は夜
わたしはいつも人間のよろこびを
うたう…
と十八世紀にゲーテはかいた

二十世紀後半に
わたしたちは人間の叡知を
うたうことができようか

わたしの指を
しっかりと握ってねむっている子

こどもたちの未来に
やすらかな地球があるだろうか

愛するものの
くるしむ姿に耐えながら

わたしは
夜がこなければいいのにとさえ思う

人みなが
安らかな憩いに
身を積たえる時にかぎって
喘息の発作はおこり
生命のリズムは狂ってしまふ

汚れていく大気圏で
松は枯れ
昆虫は滅び
若い樹木は伐られていく

地球のうえに
ひろがる絶望を
呼吸するのを拒否するように
こどもの気管支は細くふるえる

わたしが未来を託して
生んだこの子が病むように

地球もまた
病んでいく

(主婦)